

インフルエンザウイルスから ワクチン生産までの道のり

インフルエンザワクチン製造開始時期
北半球:2月
南半球:9月

インフルエンザ
世界中で5~10%の大人、
20~30%の子供が感染します。

ウイルスの形は
常に変わっていきます。

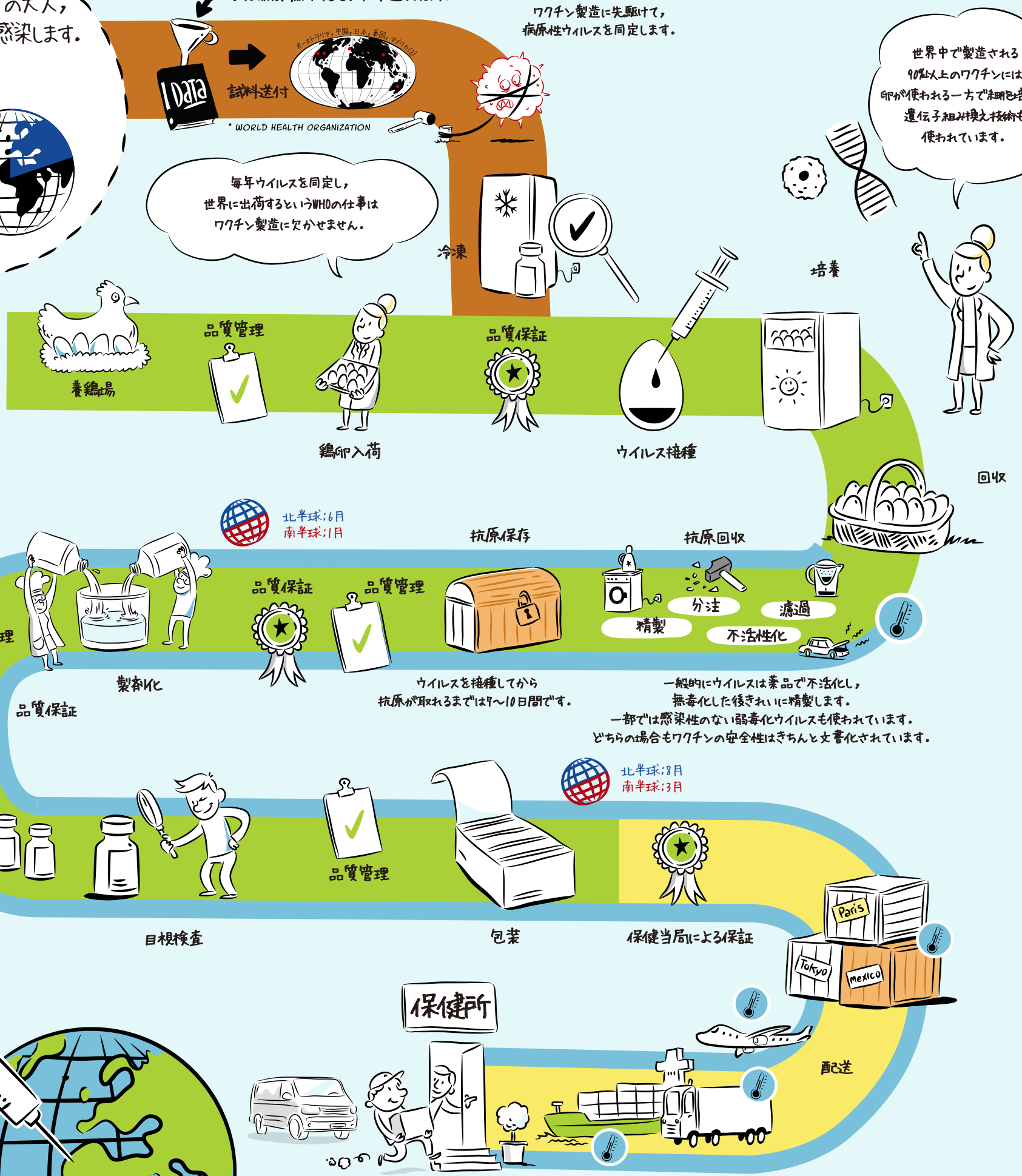
世界中の100か国以上の
国営インフルエンザセンターからウイルスが集められ、
6つのWHOに協力するセンターに送られます。

ワクチン製造に先駆けて、
病原性ウイルスを同定します。

毎年ウイルスを同定し、
世界に出荷するというWHOの仕事は
ワクチン製造に欠かせません。

世界中で製造される
90%以上のワクチンには
卵が使われる一方で細胞培養や
遺伝子組換え技術も
使われています。

- WHOグローバルインフルエンザ監視、
対応システム(GISRS)
- インフルエンザワクチン製造業者
- 冷蔵運送(4℃)
- 製造業者、政府、
国際機関、一般社会



ウイルスが
流行するまでにワクチンを
作らないといけないので
スケジュールに
余裕はありません。

バイアルか
シリンジに充填

ウイルスを接種してから
抗原が取れるまでは7~10日間です。

一般的にウイルスは薬品で不活性化し、
無毒化した後さらに精製します。
一部では感染性のない弱毒化ウイルスも使われています。
どちらの場合もワクチンの安全性はきちんと文書化されています。

World Health Organization

インフルエンザワクチン接種が重要な人たち:
生後6か月から5歳までの子供 - 妊娠中の女性 -
高齢者 - 医療従事者 - ある種の慢性疾患にかかっている人

インフルエンザ流行開始時期
北半球:10月頃
南半球:5月頃